

2007 年度

科目名	対象学科・学年	担当者
生命倫理学	薬学部薬学2 回生	西岡 秀爾
授業テーマ 日本の風土で培われた独自の生命観・倫理観の探求		
授業の概要と目標 生命倫理の問題は非常に多岐にわたるが、まず現状を概略的に通覧してみる。生命倫理は、歴史・文化と深い関わりがあり様々な考え方がある。その文化的な差異による多様な考え方を紹介する。特に日本人は、無意識にしる仏教との関わりが深い。よって、歴史的・文化的にも異なる西洋の倫理観との比較検討により、日本という風土にあった倫理観を学びたい。受講者各自が生命に関わる職業人（薬剤師・薬学研究者）としての自覚を持ち確かな倫理観を身につけてもらいたい。		
評価方法 学期末の授業内試験の成績により評価する。平常点も考慮します。		
テキスト 必要に応じてプリントを配布する。	著者	出版社
参考書 『生命倫理とは何か』 『生命倫理学入門』 『生命倫理と医療倫理』等 （適宜紹介する。）	著者 市野川容孝 編 今井道夫 著 伏木信次 編	出版社 平凡社 産業図書 金芳堂
授業スケジュール・内容 1. 生命倫理学（バイオエシックス）とは何か —— 歴史的背景、成立 2. 生と死の定義 —— 生命とは、生と死の境界線 3. 仏教の生命観 —— 仏教生命観からみたいのち、四苦（生・老・病・死） 4. 死をめぐる生命倫理① 脳死 —— 蘇生限界点、脳死は人の死か 5. 死をめぐる生命倫理② 臓器移植 —— 脳死判定、ドナーとレシピエント、臓器売買 6. 死をめぐる生命倫理③ 安楽死・尊厳死 —— 積極的安楽死と消極的安楽死、尊厳死法、死ぬ権利 7. 死をめぐる生命倫理④ ターミナルケア —— 末期医療、QOL と SOL、ホスピス、ペインコントロール 8. 出生をめぐる生命倫理① 人工授精 —— 体外受精、胚移植、生殖革命 9. 出生をめぐる生命倫理② 代理出産 —— 代理母、ホストマザー、サロゲートマザー 10. 出生をめぐる生命倫理③ 出生前診断 —— 優生思想、障害胎児 11. 出生をめぐる生命倫理④ 人工妊娠中絶 —— 選択的中絶、男女産み分け、減数手術、女性の自己決定権 12. 遺伝子技術 —— 遺伝子診断、再生医療、クローン、遺伝子操作、遺伝子治療 13. インフォームド・コンセント —— 医者と患者の関係、自己決定権 14. 医療と社会 —— 障害者福祉、老人福祉、高齢社会 15. まとめ —— 生命倫理の課題と展望		